



山王台だより2月号

令和5年1月31日

横浜市立山王台小学校

〒235-0016

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL:045(755)1107

【学校教育目標】自分のよさに気付き、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

節分～鬼はどこ？～

副校長 山田 正治

今年度も残り二ヶ月を残すのみとなりました。教職に就き三十年余りになりますが、年が変わってからの残り三ヶ月は年々速く過ぎていくように感じます。正に「一月は『往く』、二月は『逃げる』、三月は『去る』」といったところでしょうか。

早いと言え、2月4日は立春で、まだまだ寒さが厳しいですが、暦の上ではこの日から春ということになります。立春の前日は季節の分かれ目ということで「節分」です。現代では一般的に「節分」と言うと、この冬から春へ移る前日のことを言いますが、その他の季節の分かれ目も「節分」なので、実は「節分」は一年に四回あるということは、みなさんもお存知だと思います。ちなみに私はこのことを中学生になってから知りました。

さて、今月のいわゆる一般的な2月の節分ですが、地域によってこの日に行ういろいろな風習や慣わしがあります。近頃は恵方巻きを食べることが全国的に広まっていますが、何と言っても豆まきが今でもナンバーワンではないでしょうか。私も数年前までは家庭で鬼の役をしていたのを思い出します。豆をまくのは鬼を追い払うためと言われていますが、「鬼」とはいったい何を表しているのでしょうか。

これには諸説ありますが、私が最も好きな説は、「鬼＝人間誰も持っている負（マイナス）の感情」というものです。負の感情とは、欲、怒り、怠け等があると思いますが、全て自分自身の心に起因するものです。つまり、「鬼」は自分の心の中にあるのだと私は解釈しています。自身の心の中の鬼を追い払うということは、自分で自分を律していく（自律する）ことに他ならないと思うのです。このことは言い換えると、「自分との勝負」です。勝つべき相手は他の誰でもなく、自分の心の中の鬼なのです。

この「自分との勝負」は、節分の日に限らず、毎日のようにそれぞれの心の中で行われているでしょう。もちろん連戦連勝が理想ではありますが、そうはいかない人も多いと思います。心の中の鬼を追い払えないことくらい、誰でもあると思います。

ここで、何が大切かという、自分の心の中に鬼がいることを自覚することだと考えます。自分の中には負の部分もあることを認める。それをできれば追い払う、そのために最大限の努力をする。もちろん追い払えないこともあるが、局面ごとにその努力を続ける。この繰り返しが大切なのではないのでしょうか。節分での豆まきは、このことを一年に一回肝に銘じるために行うよい機会だと私は毎年感じています。

さて、今年の豆まきでは、みなさんはどんな鬼を追い払いますか。今年もまだコロナ禍で、大きな声で「鬼は外、福は内」と言えませんが、心の中でそれぞれの思いを叫ぶしかなさそうですね。

